

日本リスク研究学会は、日本におけるリスク研究と研究者相互の交流を図ることを目的として、1988年に米国に本部をもつ国際的なリスクについての学術団体であるSRA(The Society for Risk Analysis)のJapan sectionとして発足しました。現在では、米国、欧州、東南アジアの諸学会と緊密な連携をとりつつ独自の活動を展開しています。

- 目次
1. [From the president \(前田恭伸\)](#)
  2. [九州で年次大会！ \(甲斐倫明\)](#)
  3. [委員会短信](#)
    - 3.1 事業委員会より (岸本充生)
    - 3.2 海外渉外委員会より (小野恭子)
    - 3.3 情報管理委員会より (臼田裕一郎)
  4. [編集担当から \(瀬尾佳美\)](#)

## 1. From the president

### 日本リスク研究学会会長 前田恭伸

6月の総会で会長に就任することになりました、前田恭伸です。これから2年間よろしく願いいたします。

今後2年間のうちに進めたいと思っていることがふたつあります。ひとつは、海外との連携を強化すること、ふたつめは学会におけるリスクマネジメントの位置づけを強化することです。

以前、本学会誌の巻頭言にも書きましたが (Vol.25, No.4, 2015)、時々日本リスク研究学会内の議論が内向きであるように感じる場合があります。日本のリスク研究者が国内のリスクに目を向けるのは至極当然のことですし、またその成果を還元すべき場所として国内が選ばれるのは確かに自然な流れでしょう。しかし海外の研究者から、日本からのアウトプットへの期待を聞くことがあります。例えば、2011年の東日本大震災ではわれわれはマルチプルハザードに対処するという事態に直面しました。こういう経験から何が得られたのか。そういった成果を彼らは期待しています。

また、海外の研究者をわが国に呼んで交流することも重要でしょう。当初、東アジアリスク会議という名前で構想された国際会議は、SRA 中国、SRA 韓国、SRA 台湾との連携のもと、下記のように過去5回開催されました。

1998年, First China-Japan Conference on Risk Assessment and Management, 北京

2001年, Second Asian Symposium on Risk Assessment and Management, 神戸

2004年, International Joint Conference "Risk Assessment and Management", ソウル

2009年, Asian Conference on Risk Assessment and Management 2009, 北京

2014年, 2014 SRA-Asia Conference, 台北

この流れを受けて、2017年度に次のSRA-Asia Conferenceの開催を計画しています。幸いなことに関西大学社会安全学部(大阪府高槻市)が大会の開催校として名乗りを上げてくださいました。関西大学にて調整をいただいた土田元会長に感謝いたします。この会議の成功に向けて努力していきたいと考えていま

---

す。

一方、リスクマネジメントは、リスクアセスメント、リスクコミュニケーションとならぶリスクアナリシスの3要素のひとつであり、重要な活動なのですが、本学会の中での位置づけはそれほど大きなものにはなっていません。年次大会を見ると、リスクアセスメントとリスクコミュニケーションに関する発表は活発なのですが、リスクマネジメントはどうでしょう？この状況は海外も同様らしく、SRAにおいても数年前までリスクマネジメントを扱う specialty group は存在していませんでした。

そうなる理由はわかるのです。リスクマネジメントの核心は企業や行政のような組織の実践にあるのですが、これは研究になじみにくいという性質があります。また対応すべきリスクに立ち向かおうとするほど、個別の領域・分野に入り込む必要があり、そうすると「個別分野で議論すればいいんじゃないか」ということになりかねません。

しかし、リスクマネジメントの実践に対する考察が、新たなテーマや概念の源になっていることも確かです。リスクマネジメントを支える研究の必要性は、レギュラトサイエンスという概念が生みだしました。3.11への対応（あるいは対応のまずさ）がリスクマネジメントに様々な反省を生み出していることは記憶に新しいところです。リスクマネジメントの課題への考察がリスクガバナンスというより広汎な概念を生み出したことも忘れてはなりません。こういったことを考えると、リスクマネジメントの実践をわが学会の活動の中に重要なものとして位置付けることが必要だと思います。実際、SRAでも2,3年前には Applied risk management という specialty group が設立されました。本学会においても何らかの形でリスクマネジメントの位置づけを強化したいと考えています。

---

## 2. 九州で年次大会！

---

### 日本リスク研究学会第29回年次大会を九州の大分市で開催

大会委員長 甲斐倫明

日本リスク研究学会年次大会の歴史で初めて九州で開催します。大分市は九州の東部に位置する、人口が約47万人の中核都市です。最近「日本一のおんせん県おおいた」のコピーで観光を売り出していますが、温泉以外にも国東半島の六郷満山お寺巡り（国宝富貴寺など）、国宝臼杵石仏を代表とする磨崖仏の文化遺跡もたくさんあり、自然と文化遺跡に恵まれた地であります。ぜひ、この機会に大分の観光も楽しんでみてはいかがでしょうか。

大分大会では、「リスク概念の理解と普及に向けて」というテーマで、大会シンポジウムでは、「リスクのものさし」と題して、定量的概念としてのリスクのものさしの意味、利用する場合の長所と短所を議論しながら、分野横断的な「ものさし」を確立していくとすればどのような「ものさし」を構築していくべきかについて議論します。演者も各分野（がん疫学、環境リスク比較、リスク心理学、リスク認知）を代表する研究者に集まっていただき議論します。

学会は会員の成果発表の場ではありますが、学会の外によびかけて、社会とリスク学の接点を考えるために、大会パネル討論「リスク報道におけるメディアと専門家との連携のあり方」を行います。4つの新聞社で科学技術とリスクに関連してご活躍されているジャーナリストに出席していただき議論を行います。パネリストには、新山前学会長に会員として参加していただきます。

---

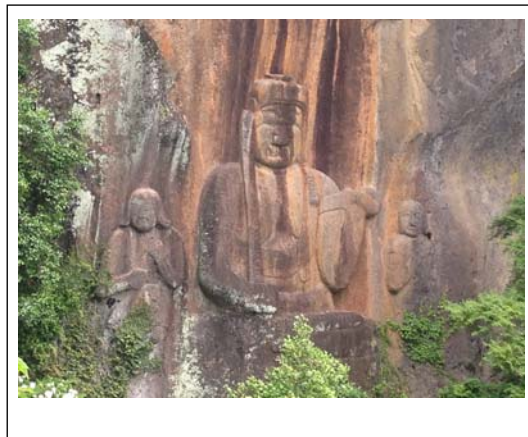
---

企画セッションは、5つのテーマで行われます。とくに、「今なら温泉で泳げます・温泉がリスクと向き合うとき」というテーマで、4月の熊本大分地震で観光地が受けた被害から復興に向けた取組みを関係者と会員とでコラボして議論いたします。

今回の大会の特色として、ポスターセッションを全体セッションに位置づけました。ときとして注目されにくいポスターの特色を生かすべく、研究成果の討論を学会参加者全員で行うようにして、多くの会員と深い議論ができるようにいたしました。

学会終了日の翌日 28日(月)には、企画セッション「今なら温泉で泳げます・温泉がリスクと向き合うとき」の関連企画として、別府の地学巡検のバスツアーを予定しています。企画セッションの演者をお願いしています油佐京都大学名誉教授に同行いただき専門的解説をお願いしています。参加の予約は大会ホームページからお願いします。

以上、詳しい内容は大会ホームページ (<http://www.sra-japan.jp/SRAJ2016HP/indexjp.htm>) を参照ください。



---

## 3. 委員会短信

---

### 3.1 事業委員会より

事業委員会 岸本充生

★タスクグループ (TG) の募集のお知らせ

第一期では4つのタスクグループが今年の春まで約2年間の活動を行いました。それぞれ、特徴のある活動を行い、様々な成果が出てきました。成果は、年次大会のセッションで発表するとともに、近いうちに学会ウェブサイトに掲載予定です。

続いて、第二期のタスクグループを募集したいと思います。締め切りはいったん、年次大会までとします。タスクグループについての内規は次のとおりです。

- ・テーマは一般的なものとし、学会及び会員にとっての有益性の観点から理事会の承認を得て発足する。
- ・まとめ役を1人置く。必要があれば複数でも構わない。
- ・予算が必要な場合は事業委員会を通じて年度はじめに申請する。
- ・発足時には会員、特に若手への参加募集の案内を行う。定期的に案内を実施することが望ましい。
- ・年に少なくとも1度、年次大会での企画セッション等での発表を行うなど、まとまった報告を実施する。
- ・期間は2年を目安とし、成果をなんらかの形で公表する（論文、外部予算申請、報告書など形式は自由）。
- ・2年を超えて更新する場合は、改めて理事会の承認を得る。

### ★年次大会の初日晩のワークショップ

11月25日(金)の18時30分(当初より30分遅くなりました)から20時30分ころまで、気軽なディスカッションの場としてのワークショップを開催します。ここでは、2つのテーマを取り上げる予定です。

1つ目は、上で触れた、第二期タスクグループの提案プレゼンを提案者からやってもらい、どんな内容にしたらよいか、また、こんなタスクグループがあったらいいな、など、自由に議論しようと思っています。

2つ目は、2018年に迎える「学会30周年」に向けてどんなアクティビティができるだろうか、です。手堅いものから奇想天外なものまで(実行可能性はいったん度外視してもけっこうですので)自由に挙げていただければ、と思います。

飲み物や軽食もお持ちいただいてもけっこうです。どなたでも遠慮なく気楽に参加していただければと思います。

問い合わせはともに、事業委員会担当理事、岸本充生まで、連絡ください。

[kishimoto@pp.u-tokyo.ac.jp](mailto:kishimoto@pp.u-tokyo.ac.jp)

## 3.2 海外渉外委員会より

### 海外渉外担当 小野恭子

本年6月より新しく理事になりました、産業技術総合研究所 安全科学研究部門の小野恭子です。合理的な化学物質管理に資するリスク評価研究を行っています。意思決定にリスク評価の成果をいかに組み込んでいくかについても興味があります。学会では海外交渉(国際)担当理事ということで、SRA本部との連絡調整や東アジアリスク学会の企画などをいたします。次回の東アジアリスク学会は2018年初めに日本での開催が予定されています。東アジアの課題を共有しつつ、ネットワーク化を促進し、各国の研究の発展につながる有意義な会合にすべく尽力したいと思います。

## 3.3 情報管理委員会より

### 情報管理委員会担当 臼田裕一郎

日本リスク研究学会ホームページ(<http://www.sra-japan.jp>)について、管理の効率化とサーバー経費の削減のために、2016年9月1日より、新しいサーバーへ移管するとともに、CMS(コンテンツマネジメントシステム)をXOOPSからWordpressへ変更することとなりました。コンテンツについては、要望の多いものから優先度を高く設定し、順次移行作業をしていますが、全てを移行するには数カ月お時間を頂くことになりそうです。しばらくはご不便をおかけいたしますが、何卒ご了解の程よろしく願いいたします。

これに伴い、東日本大震災及び原発災害に対する災害対応特設サイト(<http://311sra.ecom-plat.jp>)についても、新サイトのコンテンツとして移行することといたします。その節は、市民の方々からの質問に対し、学会員の皆様より迅速かつわかりやすいご回答をいただき、誠にありがとうございました。今後も、学会として社会にどのような貢献ができるのかを常に考えながら活動することができればと思います。

情報管理委員会では、新たな情報発信や企画も検討しております。学会員の皆様からのご提案も随時受け

---

付けたいと思いますので、何かありましたら「[mlmanager@sra-japan.jp](mailto:mlmanager@sra-japan.jp)」までお知らせくださいますようお願いいたします。

---

## 4. 編集担当より

---

青山学院大学 瀬尾佳美

### ① 原稿募集！

このニュースレターにふさわしい原稿を募集しています！応募原稿は編集担当 [t31313@cc.aoyama.ac.jp](mailto:t31313@cc.aoyama.ac.jp) までお願いします。

### ② 世間のニュースクリップ

抗菌せっけんについてこんなニュースがありました

[抗菌せっけん、米で販売禁止 「効果に根拠ない」 トリクロサンなど殺菌剤 19 種](#)

米食品医薬品局（FDA）は2日、抗菌作用のあるトリクロサンなど19種類の殺菌剤を含む抗菌せっけんやボディークリームなどを販売禁止にすると発表した。通常のせっけんより殺菌効果があるという根拠がなく、長期使用の安全性も検証されていないとしている。（2016/9/3 日経新聞）

FDA のサイト

[FDA issues final rule on safety and effectiveness of antibacterial soaps](#)

殺菌効果があがるどころか、耐性菌発生のリスクが懸念されているようです。

[Consumer Antibacterial Soaps: Effective or Just Risky?](#)

### ③ 編集後記

前回に引き続き、骨折ネタで失礼します。骨折に限らず一般にリスク（コスト）を小さくする方法は少なくとも二種類あります。一つはその事象自体がおきないようにする対策、もう一つは事象がおきてしまった後の対策です。骨折にしても骨を折った後の生活がうまくできるようなインフラが整っていると、生活は楽になります。

さて手が不自由な段階で、子供を連れて温泉（といっても立ち寄り湯）に行ったのですが、脱衣所のロッカーのバネ・・・って鬼ですね。片手が不自由なので、荷物を持つ手とロッカーを開ける手が同じになります。でもそれだと腕に下がっている荷物をロッカーにいれることはできません。なので、いったん荷物を下において自由なほうの手で戸をあけますね？で、下においた荷物を同じ手で取ろうとしますと、バネでパチャンと戸が閉まるわけです。戸を頭でおさえておこうとすると、今度は下に置いた荷物に手がとどかない。誰がつけたんですかね、あのバネは・・・

腕はもう治りました。ご心配をおかけいたしました m(\_ \_)m

---